

●何目あるの？どっちの陣地？●

児童ら囲碁に目輝かせ

附属小で県内初の授業

プロ棋士 手ほどき ルール、礼儀学ぶ

弘前市の宙空囲碁クラブ（古川元代表）中で行った。同校3年生全105人が、表）は15日、弘前大学附属小学校（田中完校長）で、プロ棋士による囲碁の入門教室を、県内で初めて授業時間の楽しさに触れた。（工藤瑠美子）

同クラブは県最強位の元アマ六段とプロ棋士のこんゆ二段の夫妻が主宰。ボランティアで同大学囲碁部を指導している縁で、同

大を通じて同小での囲碁の授業が実現した。こんゆ二段は石の置き方や取り方、陣地の数え方など、基本のル

「何目あるかな」とい

「これはどっちの陣地かな」

「積極的に挙手して答え

児童同士の対局では一度に四つの石を取ったり、巧みな攻守を見せるなど初めてとは思えない「打ち回し」をする子もいた。

待した。

こんゆ二段は「予想以上に興味を持ってもらえた上に、みんな理解が早くて驚いた」、元アマ六段は「これからもPRを続け、1校でも多く入門教室の機会をつくりたい」と、それぞれ話した。

16日は4年生87人が授業を受ける。



児童に囲碁を教える元代表（右）とこんゆ二段（中央）

葛西華那心さんは「陣地を囲うところが楽しかった。家族とやってみたい」、佐藤琉彩さんは「（囲碁は）おじさんがやるものだと思うっていた。（こんゆ）先生のようなプロが（弘前に）いてすごい」とそれぞれ笑顔で語った。

また同小3・4年複式学級の担任で囲碁将棋クラブ担当の對馬秀孔教諭は「囲碁という文化を知るきっかけになればうれしい」と期